

以下のスライドの著作権等について

- 以下のスライドは2015年3月7日に早稲田大学8号館303/304/305会議室で開催された日本英語教育学会第45回年次研究集会での発表に使用しました。
- すべての無断複製を禁止します。
- 以下のスライドの著作権・使用許諾条件・掲示責任者・連絡先などについては
<http://www.f.waseda.jp/harada/copyright-j.html>
をご覧ください。

2015年3月7日(土曜日) 早稲田大学8号館303/304/305会議室

【会長講演】

語学教育と教養教育の連携と統合

—国際バカロレア科目「知の理論」(TOK)が大学英語教育に示唆するもの—

日本英語教育学会第45回年次研究集会 研究集会テーマ:外国語学習の言語学的基盤

原田 康也

harada@waseda.jp

早稲田大学 法学学術院 教授(英語・言語情報副専攻担当)
日本英語教育学会 会長

本日の話題

- **英語教育の目的**
 - 『教養』か『実用』かの不毛な対立を乗り越えて
 - 一般教育としての英語教育 cf. 国際基督教大学
- **一般教育(教養教育)としての大学英語教育**
 - 言語教育と情報教育の統合
 - 言語教育と一般教育の統合
- **グローバル人材の育成**
いつでも・どこでも・だれとでも・仕事ができる
 - International Baccalaureate
 - Theory of Knowledge

語学教育と教養教育の統合

- 『教養』派と『实用』派の不毛な対立 a la 柳瀬陽介
 - 「単純文法訳読派」と「単純オーラル・コミュニケーション派」の不毛な対立（柳瀬陽介）
 - <http://ha2.seikyou.ne.jp/home/yanase/review.html#020416>
 - コミュニケーションが大切だから文法はいらない？
 - 知識の背後には規則がある
 - 規則を知識として教えることは適切ではないかもしれない。
 - 教養とは何か？ 实用とは何か？
- 『实用』派による『教養』派の駆逐の後に教養としての英語教育の構築が必要

現代日本の大学英語教育における課題

- **学生の英語力**
 - 学習到達度の多様性
 - 語彙不足・読解力不足・表現訓練不足
- **学生の一般的学習能力**
 - 調べとまとめと発表・批判的受容・創造的思考・知識の統合
 - レポート・文章のまとめ方(引用・出典など含め)
 - 口頭発表・プレゼンテーション(引用・出典など含め)
 - コンピュータ・ネットワーク・検索システム・図書館の利用
- **学生のコミュニケーション力**
 - 対人関係・無発言行動*
 - 論理的表現力(文書・口頭での説得力)
 - 即時的応答力(時間に制約のある課題)

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」,小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』,p. 102,評論社,2004年5月15日.

無発言行動*

- 大学での教職員の経験
 - 「私語が多くて授業が成り立たない場合がある一方で、**指名されても押し黙ったままで、話す意欲を見せない**。いかにして自分の考えを言わせるかに教師は苦勞する」
 - 「研究室や事務局窓口では、**訪ねてきた理由を問わないと学生は説明を始めないし、答えも単語を並べるだけで文章になっていない**」
- これを裏付けるデータ: 大平浩哉(前早稲田大学)
 - 無発言行動
 - 教師に問われても答えない
 - 発言を促されてもなかなか話そうとしない
 - **いつから発言しなくなったか(1998年の調査)**
 - 小学校高学年 10% (累積無発言率 10%)
 - 中学校 41% (累積無発言率 51%)
 - 高校 22% (累積無発言率 73%)
 - 大学入学以降 04% (累積無発言率 77%)
- 高校生たちの声: 吉岡泰夫(国立国語研究所)2002年
 - 授業中、**生徒が自ら考えて発言しても、先生の考えに沿うものでなかったら先生は權威を振りかざして封じ込めるので、コミュニケーションが成り立たない**。
 - 先生に使って敬語を使って話せと指導されるのに、先生は生徒に対して「です・ます」さえも使わない。とくに、生徒を注意する場面では敬称さえ使わず呼び捨てであり、生徒に対する敬意が感じられない。先生は自分のことを「先生」という自称詞で言っていることからしても、**子ども扱いされている**ようでいやだ。

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」,小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』,p. 102,評論社,2004年5月15日.

教養教育とは何か？

- **日本の古典的教養**
 - 四書五経・和歌俳句・書画骨董：文人
- **日本の教養教育：**
 - 旧制高校（デカンショ）：哲学書の博覧強記
 - ドイツ教養主義（ビルドゥング）の影響
 - 新制大学（一般教育科目）：人文科学・社会科学・自然科学
 - 国語・日本語・外国語は教養なのか語学なのか？
 - 数学は教養科目なのか基礎科目
 - 大学設置基準大綱化→一般教育の崩壊→専門教育重視の失敗→教育の質保証→グローバル人材育成

教養教育とは何か？

- 欧米の教養教育：自由七科 (septivium)*
 - 自由三科 (trivium)：文法と論理と修辞
 - 自由四科 (quadrivium)：算術・幾何・音楽・宇宙
 - リベラルアーツ：
 - 批判的思考力の養成
 - 論理的表現力の涵養
 - 説得的交渉力の獲得
 - English 101：学術的論文の書き方

*中山茂,「歴史としての学問」, 中央公論社, 1974年10月.

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」① コミュニケーションとは何か

- 現代にふさわしい「**市民的教養**」を考える上で、**コミュニケーション能力**は重要な要素である。
- 他者との**協働の能力**を向上させることこそがコミュニケーション教育の目的だからである。
- **公共的課題**の発見とその解決においては、自らの価値観や視点とは**異なる他者と出会い**、他者の価値観や視点を理解し、**協働する能力**が求められる。
- 自らの意見を**論理的に構成し**、**交渉**を通じて**合意**を生み出す能力も育成されねばならない。
- 国内、国外を通して、異なる価値観や視点を持つ他者と協働する機会が増大することが予想され、そこでのコミュニケーション能力の育成は、**教養教育の重要な課題**である。

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」③ 国際共通語としての英語教育

- グローバル化に伴い、**英語は**、イギリス人やアメリカ人の母国語というあり方を越えて、世界で最も広い範囲に流布する**国際共通語となっている**。このような国際共通語としての英語は、現在のアメリカ合衆国の政治力、経済力、軍事力の優位を背景にして生まれたものである。特にビジネスや情報のように物事の構造よりも流通・交流が問題になる分野、科学研究とりわけ自然科学のように標準化された手法と道具—度量衡の標準化はその象徴である—に基づく研究活動を通じて世界規模の科学者共同体が成立している分野では、**共通語使用の利便性は高く、その習熟は不可避である**。
- このような観点からすれば、**教育・学習の対象になるのは、英米の言語としての英語ではなく、媒介言語としての英語である**。
- こうした国際共通語としての英語の教育は、従来の外国語教育とは別のカテゴリーに属するものと解するべきである。グローバルな局面で、**文化と言語を異にする他者と協同し交流する能力を育成するために、アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションを核とする「英語によるリテラシー教育」**を構想する必要がある。その際、異文化との接触において自らのあり方と立場を説明し理解してもらうことの重要性を思えば、日本事情・日本文化は学習内容の重要な要素となるはずである。

21st Century Skills

- **3 Cs in 1970s**
 - car / cooler / color television
- **4 Cs in the 21st century**
 - communication
 - collaboration
 - creativity
 - critical Thinking

http://www.p21.org/storage/documents/21st_century_skills_education_and_competitiveness_guide.pdf

To learn more about 21st century learning, visit www.21stcenturyskills.org

グローバル人材育成推進事業(文部科学省)

- **若い世代の「内向き志向」**を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、大学教育のグローバル化のための体制整備を推進する。
- **新着情報**
 - 平成24年9月24日: 平成24年度「グローバル人材育成推進事業」の採択事業の決定について(※報道発表へリンク)
 - 平成24年6月28日: 平成24年度「グローバル人材育成推進事業」公募申請状況について
 - 平成24年4月23日: 平成24年度グローバル人材育成推進事業の公募について(通知)
 - 平成24年4月13日: 平成24年度「グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業」公募説明会の開催について
 - 平成24年4月9日: グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会(第1回)の開催について
 - 平成24年3月12日: グローバル人材育成推進事業及び大学の世界展開力強化事業準備会合の開催について

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1319596.htm

グローバル人材育成推進事業（日本学術振興会）

- グローバル人材育成推進事業は、若い世代の「**内向き志向**」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる「人財」の育成を図るため、大学教育のグローバル化を推進する取組を行う事業に対して、重点的に財政支援することを目的としています。
- 本会では、文部科学省と共同でグローバル人材育成推進事業プログラム委員会を設け、この事業に関する審査・評価を実施します。

<http://www.jsps.go.jp/j-gjinzai/index.html>

グローバル人材育成委員会(経済産業省)

- 近年、国内市場の絶対的規模の縮小により、我が国の企業はその事業活動をボリューム・ゾーンの新興国市場を含めた海外市場での発展を求める必要性が高まるなど、経済のグローバル化は着実に進展しています。こうした中、真にグローバルに通用する人材(グローバル人材)が必要とされています。
- しかしながら、日本人の英語力は世界的に見ても低水準であることに加え、最近では20代の出国率が低下するなど、若者のグローバル意識の変容も見られます。これまでも各大学・企業等において「グローバル人材」の育成に向けた様々な取り組みが行われていますが、社会で求められる「グローバル人材」の人材像が必ずしも明確になっておらず、そうした人材が十分に育っているとは言い難いのが現状です。
- そこで、我が国の産業競争力強化のため、社会のニーズに合った「グローバル人材」を産学が連携して育成できるように、「産学人材育成パートナーシップ」全体会議の下に「グローバル人材育成委員会」を設置し、必要とされる人材像の検討を行いました。
- **具体的な検討項目**
 - 企業でグローバルな活動をするにあたり、どのような局面においてどのような能力が必要とされているのか。語学だけではなく、優れた人間性や教養、国内外の政治的・文化的側面を理解する能力などが求められるのではないかと。そうした能力を持つ人材を育成するため、企業においてどのように育成・評価が行われているのか。
 - 大学教育が担う人材育成機能の多様性や、企業における「グローバル人材」の育成の現状等を総合的に勘案しつつ、大学において身につけておくことが望ましい資質に関し、産学の共通認識を醸成できないか。また、そのような資質を育成するためにはどのような教育が効果的か。さらに、そのような人材を企業が採用するよう促すためにはどのような方策があるのか。

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/san_gaku_ps/global_jinzai.htm

グローバル人材育成推進会議(内閣官房 国家戦略室)

グローバル人材育成推進会議の開催について

平成23年5月19日

新成長戦略実現会議決定

1. 「新成長戦略実現会議の開催について」(平成22年9月7日閣議決定)に基づき、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目指し、とりわけ日本人の海外留学の拡大を産学の協力を得て推進するため、「グローバル人材育成推進会議」(以下、「会議」という。)を開催する。
2. 会議の構成員は、次のとおりとする。
議長 内閣官房長官
構成員 外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び国家戦略担当大臣
3. 議長は、必要があると認めるときは、関係大臣その他関係者の出席を求めることができる。
4. 会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/konkyo.pdf>

国際バカロレア資格への対応

- 高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校へ増加させる。
- IBの教育理念は全人教育にあり、そのカリキュラムは学習指導要領が目指す『生きる力』の育成や、課題発見・解決能力、論理的思考力やコミュニケーション能力等重要能力・スキルの獲得に資するもの

2011年5月 「グローバル人材育成推進会議」

International Baccalaureate: 国際バカロレア

- **DP: Diploma Program**
 - **EE: Extended Essay**
 - **TOK: Theory of Knowledge**
 - **CAS: Creativity, Action, and Service**
- **MYP: Middle Years Program**
- **PYP: Primary Years Program**

国際バカロレア・ディプロマプログラム Theory of Knowledge (TOK) について

国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力者会議

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/09/06/1325261_2.pdf

国際バカロレア

- **国際バカロレア機構（1968年に設立）**
 - インターナショナルスクールの卒業生を対象
 - 国際的に認められる大学入学資格を与える
- **IBの対象（3歳～19歳対象）**
 - DP: Diploma Program（16歳～19歳対象）
 - MYP: Middle Years Program（11歳～16歳対象）
 - PYP: Primary Years Program（3歳～12歳対象）
- **2012年7月の時点のIB認定校数**
 - 世界141カ国において約3,400校
 - 日本のIB・DP認定校は16校
 - うち学校教育法第1条に規定されている学校は5校

Theory of Knowledge 知識の理論・知識論

- **ways of knowing: sense perception, reason, emotion, and language**
- **areas of knowledge: mathematics, natural sciences, human sciences, history, the arts and ethics**
- **factors that transcend individual ways of knowing and areas of knowledge:**
- **nature of knowing: what are the differences between information, data, belief, faith, opinion, knowledge and wisdom?**
- **knowledge communities: What is taken for granted in a community? How can we decide which beliefs we ought to check further?**
- **knowers' sources and applications of knowledge:**
- **justifications of knowledge claims:**

http://en.wikipedia.org/wiki/Theory_of_knowledge_%28IB_course%29

現代の教養教育とは何であるべきか？

- **欧米の教養教育：自由七科 (septivium)**
 - 自由三科 (trivium) : 文法と論理と修辞
 - 自由四科 (quadrivium) : 算術・幾何・音楽・宇宙
 - English 101 : 学術的論文の書き方
- **現代の教養教育：言語と情報**
 - 自由三科 (trivium) : 文法と論理と修辞
 - 言語=世界観をどのように構成・表現・伝達するか
 - 自由四科 (quadrivium) : 算術・幾何・音楽・宇宙
 - 情報=世界をどのように理解し・捉え・表現するか
 - 言語情報とのかかわり
 - CSLI
 - PACLIC

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」① コミュニケーションとは何か

- 現代にふさわしい「**市民的教養**」を考える上で、**コミュニケーション能力**は重要な要素である。
- 他者との**協働の能力**を向上させることこそがコミュニケーション教育の目的だからである。
- **公共的課題**の発見とその解決においては、自らの価値観や視点とは**異なる他者と出会い**、他者の価値観や視点を理解し、**協働する能力**が求められる。
- 自らの意見を**論理的に構成**し、**交渉**を通じて**合意**を生み出す能力も育成されねばならない。
- 国内、国外を通して、異なる価値観や視点を持つ他者と協働する機会が増大することが予想され、そこでの**コミュニケーション能力の育成は、教養教育の重要な課題**である。

国際バカロレア・ディプロマプログラム Theory of Knowledge (TOK) について、平成24年8月
国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける
「TOK」に関する調査研究協力者会議（13 ページ）

- ii) 知るための方法 (Ways of knowing)
TOK においては、ダイアグラムにあるとおり、知識を獲得するための方法として、知覚、感情、言語、根拠という4つの主な方法があるとされています。注意深く考える「学習者」を育てるためには、このような4つの「知るための方法 (Ways of knowing)」を通じて知識を獲得するプロセスを続けていくことが必要です。

国際バカロレア・ディプロマプログラム Theory of Knowledge (TOK)について, 平成24年8月
国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける
「TOK」に関する調査研究協力者会議 (13 ページ)

- 「知覚」は、知覚器官を通して、あるがままの世界を見ることを提供し、「感情」は、振り返る間もなく、私たちを支配します。思考形成における「言語」の影響は明らかになっていませんが、「言語」の獲得は、我々にとっては容易なことであり、言語によって、他者とのコミュニケーションも決して難しいものではありません。「根拠」の示し方や論法を知っていれば、それを本格的に学ばなくても、言葉で議論することができます。
- TOK では、4つの「知るための方法 (Ways of knowing)」が設定されていますが、4つの「知るための方法 (Ways of knowing)」のうちのいくつかを使えば、多くの事柄を理解できるというものではありません。他にも、「知るための方法 (Ways of knowing)」があるかもしれませんし、それぞれの方法がどのように関連しているのかを探究することは有益です。

know は基本的には状態を示す動詞

- **How are you? に対する答えは**
 - **I‘m fine. / I‘m hurt. / I‘m sick. / I‘m bleeding.**
 - **I became operational on 12 January 1992 at the HAL Laboratories in Urbana, Illinois.**
- **ways of knowing は、何かを知らない人がどうすれば知ることができるか、そのための方法を意味するのではなく、何かを知っていると思っている人が、なぜそう思っているか、その根拠を指すもの。**
 - **How do you know that you exist.**
 - **I think, therefore, I am.**